



シリーズ「グローバル・ジャスティス」第57回

『女を修理する男』 上映会

(2015年ベルギー 117分 日本語字幕付)

『女を修理する男』は、コンゴ民主共和国（DRC）で1996年から続く武力紛争下で起こっている大規模で組織的な性暴力の被害者の治療とケアにあたってきた産婦人科医、デニ・ムクウェゲ（Denis Mukwege）医師の活動を記録したドキュメンタリー映画である。日本では2016年6月に初めて立教大学で上映され、現在、日本各地の大学で上映会が行われている。ムクウェゲ医師は2016年10月に初めて来日しその様子は、多くのメディアで取り上げられた。

武力紛争下の性暴力は紛争における戦略として認識されるようになっており、国連が取り組む重要な課題である。とりわけDRCのケースは、その規模の大きさと残酷性が注目を集めている。他方で、DRCでの紛争の原因と考えられる稀少鉱物の生産や歴史的背景にはあまり目を向けられていない。本映画は、稀少鉱物をめぐって続く紛争とそこで戦略として行われてきた性暴力の歴史、さらにそれに取り組んできたムクウェゲ医師の活動を記録した貴重な映画である。

デニ・ムクウェゲ 医師

1955年生まれ。産婦人科医。コンゴの性暴力を考える会作成。

1998年にコンゴ東部のブカブにパンジー病院を設立し、

4万人以上の性暴力被害者の治療と精神的ケアに尽力してきた。

また、性暴力の加害者が処罰されないことを問題視し、法律相談所を開設するなど、法の支配の確立にも力を入れてきた。

同時に、コンゴ東部における紛争と性暴力の関係について、国連本部をはじめとする世界各地で演説し、女性の人権尊重を訴えてきた。その活動は国際社会で高く評価され、2008年に国連人権賞、2014年にアメリカのヒラリー・クリントン賞、2014年に欧州議会のサハロフ賞を受賞している。2016年のノーベル平和賞受賞者の有力候補にも挙がっており、2016年5月のタイム誌では、「最も影響力のある100人」に選ばれた。



日時：2016年12月22日(木)

18:00 - 21:00

会場：寒梅館クローバーホール

入場無料・申込不要

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930

E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp

共催：フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター、「女性・戦争・人権」学会